

思考力を高める現代社会指導の工夫② ーコメントカードの使用と分析を通してー

峯川 浩一

I 主題設定の理由

新教育課程完全実施を機に、公民科の目標の一つである「言語活動の充実」に主眼を置いた授業方法が各所で議論されている。言語活動の充実は、即ち生徒に考える機会を与え、思考の習慣を身につけさせることであると言える。私は平成 21 年度に群馬県総合教育センターの特別研修員として、「思考力を高める現代社会指導の工夫ーチャートと K J 法を利用した学びあいを通して」(<http://www2.gsn.ed.jp/houkoku/2009t/19-1.pdf>)と題し、現代社会の授業方法の研究を行う機会をいただいた。この研究の概要は、ある事象について考えるための道筋を示した図である「チャート」の使用や、K J 法を用いたグループ学習の中で他人の考え方に触れることを通し、自分自身の思考力を高めるというものであった。当時はまだ「言語活動の充実」という言葉が盛んに言われ始める少し前であったが、生徒が自分の考えをまとめ、発表するといった授業方法の研究は、新学習指導要領への移行を控えた現在においても、生徒の思考力を高めるという点において意味のあるものであった。一方、この研究も含め私がこれまで考えてきた「思考力の伸張」に主眼を置いた授業方法は、準備に多くの時間を要したり、各単元の内容によって実施回数が左右されるというものばかりであった。準備の大変さは、授業での取り組みを億劫にさせ、実施回数が減ってしまったことは否

定できない。また、研究を紹介しても、誰もが気軽に自分の授業に取り入れられるという訳でもなかった。そのため、前述の研究以降も、負担にならず、かつ効果的に「思考力の伸張」のために取り組める方法はないかと考える日々を送っていた。そこで今回、過去の研究で得たことをブラッシュアップし、クラスメイトの考えを互いに知ることによって生徒一人ひとりの思考力を磨き、「言語活動の充実」も図れる授業を目指し以下の研究に取り組むこととした。

II 研究過程と分析

1 研究のきっかけとねらい

これまで行ってきた授業実践で、思考・判断力の高い生徒の考えを他の生徒に示し伝えることで、クラス全体の思考力が底上げされることが分かった。その一方で、思考力の高い生徒の考えを広めるための方法について少々大掛かりに考えてしまい、時間と労力を要する結果になっていた。そこで今回、生徒同士が他人の考えに気軽に触れ、参考にできる方法として「コメントカード」の使用を考えた。

「コメントカード」とは、A 4 サイズの厚紙を縦半分に切ったものに、授業の感想や意見、質問等を記入できる欄を 5～6 回分設け、授業の最後に生徒に記入させるものである。授業の最後に感想等を記入させるというアイデア自体はよくあるものであるが、大学時代、学生が記

入した感想等を次回の授業の冒頭で読み上げ意見してくれる先生がいて、自分のコメントが読まれるのを楽しみにしていた事を思い出し、授業の導入部分でも使おうと考えてた。そして今回「他人の考えを知る」という目的のために行った最大の工夫は、短冊状のコメントカードを、毎回ランダムに配布し、前回の授業で他人が書いたコメントを読めるようにしたという点である。他人の考えや意見に触れることで、自分のものとは違う意見の存在に気づいたり、どんなことを書けばいいかわからない生徒が参考にするなどし、生徒全体の思考力を向上させることを主なねらいとした。また、毎回授業について振り返りコメントを記入することで、授業内容の定着や、文章を書くことの習慣化といった効果が得られることもねらいの一つとした。

2 具体的な実践内容

(1) 第1期 (コメントカード Ver.A)

3年生の現代社会の授業 (週2単位) で4月当初から9月末にかけて、授業の最後にコメントカードを記入させ(図1)、そのコメントの内容(評価)が、どのように変化したかを分析した。

コメントカードを使用するにあたり、最初に生徒に指示した基本的なルールは次の3点である。

- ①授業の残り5分を使って、感想や意見、質問等を記入する。
- ②必ず毎回全員が提出し、提出をもって出席とする。
- ③コメント内容は毎回評価し、成績の一部とする。

なお、③についてコメントカードの評価基準

コメントカード			
月	日	組	番 名前
月	日	組	番 名前
月	日	組	番 名前
月	日	組	番 名前
月	日	組	番 名前
前の人が書いたコメントを良く読んで記入する。			
コメントカード提出をもって出席とする。			

図1 コメントカード Ver.A
(評価選択欄なし)

は次の通りである。

第1期は4月の最初から5月始めにかけての時期である。現代社会という科目に初めて触れ、担当教員との関係もまだ築かれておらず、生徒も緊張感を持っていた。コメントカードは、私自身にとっても、生徒にとっても初めての取り組みであり、手探り状態の中でのスタートとなった。ただ当初予想していたよりも、他科目での成績が上位で、現代社会の授業への取り組み

A：授業内容の感想だけでなく、自分の考えを持ち、疑問点等も見出している。（3点）

例 地方交付税の仕組みについてよく分かりました。交付税の金額はどうやって決められ配分されているのか疑問に思いました。以前交付額が減らないように、年末に工事が多いと親が言っていましたが本当ですか。

B：授業内容を理解し、感想が記入できている。（2点）

例 お金を儲けるために、いろいろな人や企業が努力しているのが分かりました。株などに投資してお金を増やそうと考えている人はすごいと思いました。自分もやってみたいけれど、難しそうです。

C：授業に関することが書かれているが文字数が不足している。（1点）

例 今日の授業で、自分たちは日本製の製品をあまり使っていないことが分かりました。

D：未記入、授業と無関係な内容が書かれている。（0点）

例 眠かったです。

姿勢も良い生徒たちのコメントの評価が芳しくなく、上記の評価基準に照らすと、ほとんどがBかC評価という状況であった。また、コメントカードを配布すると生徒から「何を書いているかわからない」といった声が聞かれることもしばしばあった。

を再度伝えと共に、その時点でのコメントカードの評価点を生徒毎に示した。

①、②とも評価を生徒に意識させることで、コメント記入へのモチベーションを高めようと考えたものである。①でA評価のコメントにマークをつけた事により、マークを得ようと意識してコメントを記入する生徒の姿が見られるようになった。

またコメントカードは授業の導入部分でも利用した。授業冒頭で事前に選んでおいた5、6枚のコメントカードを読み上げ、良い意見（A評価）を紹介した。また疑問や質問が書かれているものもできるだけ紹介し、私なりの考えを伝えたりや質問の回答を行うようにした。

この頃になると、通算10回程度コメントを記入し、カードの記入に多くの生徒が慣れてきた。生徒の取り組みの様子が分かるものとして、次のようなコメントが増加したのもこの時期である。

・最初はとても面倒だと思っていたけれど、授業の最初に紹介されるとうれしい。

・授業の最初にコメントカードの紹介から入っ

第1期のまとめ

○ とりあえず取り組みをスタートさせることができた。

× 教員も生徒も手探りで、よい内容のコメントが思っていたより少なかった。

（2）第2期（コメントカード Ver.A）

第2期は5月初旬から6月初旬にかけてである。第1期の反省から、次のような改善を行った。

①第1期では、コメントに検印を押して返却するだけであったが、A評価のコメントには検印とは別のスタンプでマークをし、参考にするべきコメントを明確にした。

②コメントカードの評価は成績に含まれること

くい授業となってしまうことがあること。

③生徒の自由なコメントが、次の授業の導入に思わぬ好材料となることがあること。

④評価の有無を選択させることで、評価を受けるコメントをより力を入れて記入するようになるのではないかと予想したこと。

特に③の自由なコメントが次の授業につながるというのは、コメントカードを使い始めた際には予想できなかった点である。生徒が「評価なし」選んだが授業に生かすことができたコメントの代表的例として次のようなものがある。

・先生は大学生の時に一人暮らしをしていましたよね？その時仕送りはもらっていましたか？いくらですか？自分の親の収入だと仕送りはいくらならしてもらえるのでしょうか。

（所得税の授業をした際のコメント。授業とは直接関係がないが、次回の授業で仕送り金額の推移と景気変動を結びつける際に例として使用した。）

・今日の授業内容は少し難しかったです。以前ビデオを見ましたが、今日のところも分かりやすいビデオがあれば見たいです。（金融政策についての授業でのコメント。自分自身の授業に対する反省と共に、映像教材を見つけ生徒に見せることができた。）

また、あくまで副次的なものであるが、3年生ということで進路についての悩みや相談を記入する生徒も少なからずおり、そうした相談にのることを通して生徒との信頼関係が高まるといった効果も得られた。

第3期のまとめ

○思い切った方法変更で、生徒のコメント記入に対する意欲を高めると共に、生徒とのコミュニケーションを深めるという副次的な効果を得ることができた。

（4）第4期（コメントカード Ver.B）

第4期は夏休み明けから9月下旬にかけてである。第3期までの改善で、コメントカードの運用は一定の成果を挙げていると感じていた。ただし、これまでコメントカードの配布は完全は無作為であり、どんなコメントが書かれた内容のカードがどの生徒の手元に行くかはまったくの偶然であった。第4期では、A評価のコメントが記入されたカードが、これまでのコメントの評価が低い生徒の手元に行くように、座席表を見ながらからカードを並び替え、意図的に配布するよう工夫した。ただし、意図的なカードの配布方法はカードの並び替えにとっても手間がかかるため、当初の目的の一つである、負担にならず継続できるという点においてあくまで試験的な取り組みであった。

3 コメントカードの分析

ここでは、生徒が記入したコメントカードの評価の変化から生徒の思考力にどのような影響があったのか考察する。

（1）評価点の変化（平均点）【第1期～第4期】

図3が表すように、評価点は第1期から第3期にかけて上昇した。第1期から第2期にかけては、コメントカードの記入に生徒が慣れてきたことに加え、A評価のコメントにマーキング

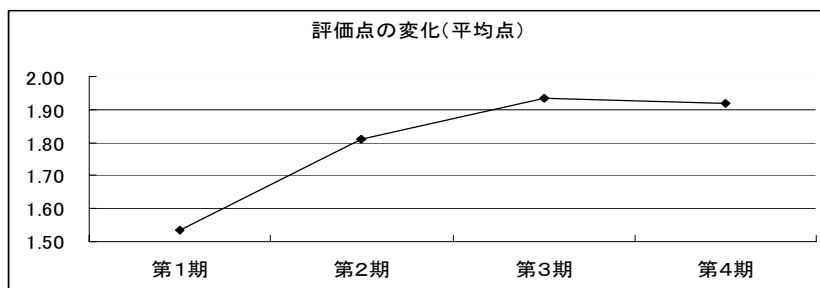


図3 評価点の変化 (平均点)

を行ったこと、生徒毎に評価点を知らせたことなどが評価点の主な上昇要因として考えられる。また第2期から第3期にかけては、評価の選択制を導入したことによる影響が大きい予想できる。しかし、高評価のカードを評価点が下位の生徒に渡るように配布方法を工夫した第3期から第4期にかけては、評価点がわずかながら低下した。高評価のコメントを参考にし、下位評価生徒のコメント内容にプラスの影響が現れるのではないかという予想とは逆の結果となってしまった。下位層には他の生徒のコメントを読んで参考にし、コメント内容で高評価を得たいというモチベーションが低い生徒が多いことも

予想され、期待した結果が得られなかったと考えられる。

(2) 階層別評価点の変化と評価点の変化率

図4は各期毎の評価点を上位10人、中位10人、下位11人(クラスの生徒数31人)の階層に分けて、その変化を記録したものである。どの階層においても、図3で示した全体の評価点の変化と同じ傾向であり、各期毎の評価点向上のための取り組みが、特定の階層のみでなく、どの生徒にも同様の影響を与えたことを表している。

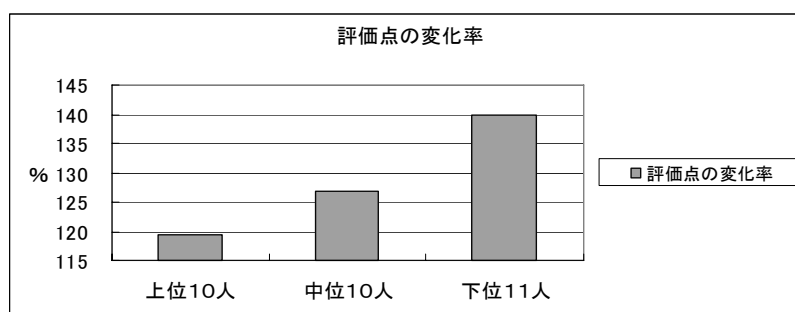


図4 評価点の変化率

図5は各階層の評価点の平均が、最も低かった第1期から、最も高かった第3期にかけてどの程度向上したか変化率を示したものである。

図4では、どの階層においても同様の傾向を示した評価点の変化であるが、変化率で見ると、上位層と比べ下位層の生徒の評価点の上昇率が

約 20 ポイント以上高いことが分かった。

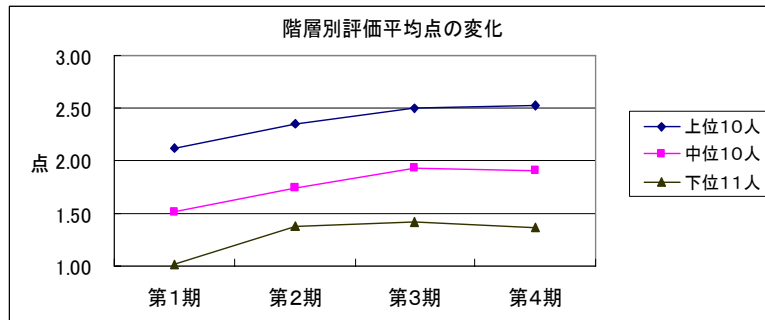


図5 階層別評価平均点の変化

(3) 前半2回のコメントの平均点と後半4回のコメントの平均点の関連性(第1期・第2期)

表1 各期コメント平均点

	第1期	第2期
前半2回の平均点が1.5以上のカードの後半4回の平均点	1.29	1.36
前半2回の平均点が0.5以下のカードの後半4回の平均点	1.23	1.60

表1はコメントカード自体に着目し、第1期と第2期の各コメントカードの前半2回の平均点の高低が、後半のコメントにどのような影響を与えたかを表したものである。第1期に関しては、前半2回のコメントが1.5以上の高評価

のカードと、0.5以下の低評価のカードの、後半4回のコメントの平均点の差は0.03点しか生じなかった。また第2期では前半が高評価のカードよりも低評価のカードの方が後半の平均点が0.24点高いという結果となった。当初、前半のコメントの評価の高いカードを受け取った生徒はその意見を参考にすることができ、後半の評価も向上するのではないかと期待したが、そのような成果は得ることができなかった。

(4) コメント評価点平均と考查点平均の関係

図6は階層別のコメント評価点平均と、定期テスト(1学期中間・期末、2学期中間)の平均点の関係を表したものである。コメントカードの評価点と定期テストの平均点には明確な関

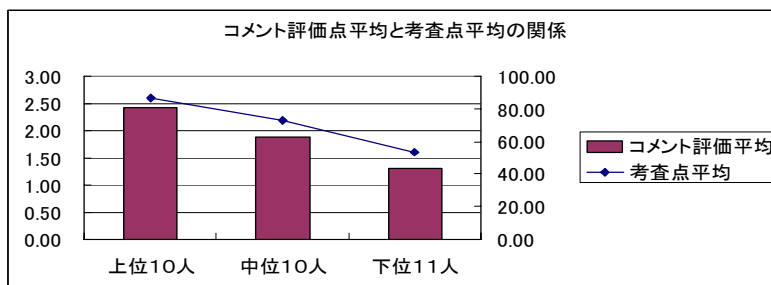


図6 コメント評価点平均と考查点平均の関係

係性が見られた。優れたコメントを記入する生徒は、授業へ取り組む姿勢が良好であり、結果的に定期テストでも高得点を得ていると考えられる。

4 生徒アンケートによる分析

ここでは、生徒に対するコメントカードに関するアンケートの集計結果から、カードの使用がもたらした影響について分析する。

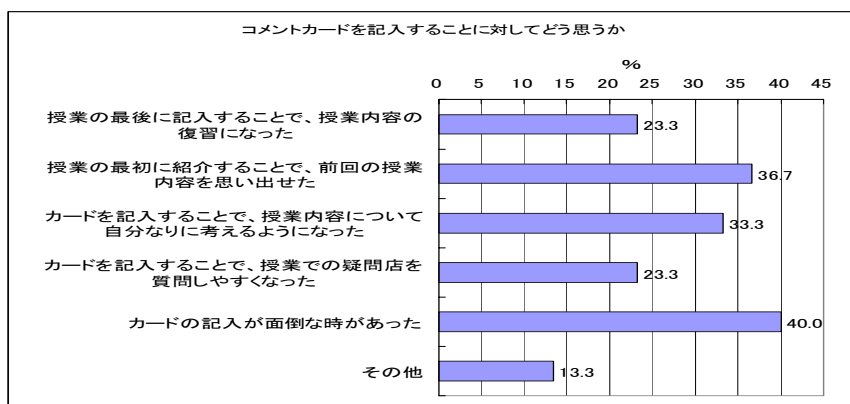


図7 「コメントカードを記入することに対してどう思うか」への回答

(1) コメントカードを記入することに対してどう思うか

図7は、「コメントカードを記入することに対してどう思うか」の質問に対する回答（複数回答可）をまとめたものである。メリットとして、「授業の最初に紹介することで、前回の授業の内容を思い出せた」のポイントが最も高くなった。授業の冒頭5～10分程度の、通常の授業形態では「前時の復習」に充てる場面でコメントカードを使用したことは、自分やクラスメイトが書いた意見が紹介され、教員の準備した復習用の発問よりも親しみが沸いたと考えられる。全体の質問項目では「カードの記入が面倒な時があった」が最もポイントが高かった。生徒の正直な感想といったところであると思うが、「その他」には『面倒だったが、参考になった』『面倒なときもあったが続けて欲しい』といった好

意的なものもあった。記入を面倒と感じつつも、多くの生徒がそれなりのメリットを見出していたと考えられる。

(2) 評価の有無を選択できるようにしたこと
でどんな変化があったか

図8は第3期から導入した、評価の選択制についての影響をまとめたものである。残念ながら最も多かった回答は、『評価の有無を選んでもあまり影響はなかった』であり、評価の選択制による動機付けは、期待していたほどではなかった。ただし、『カードを記入しやすくなった』『評価の有無を選べたほうが、がんばって記入しようと思うようになった』を合わせると、40%以上となり一定の生徒にとっては意味のある取り組みであった。

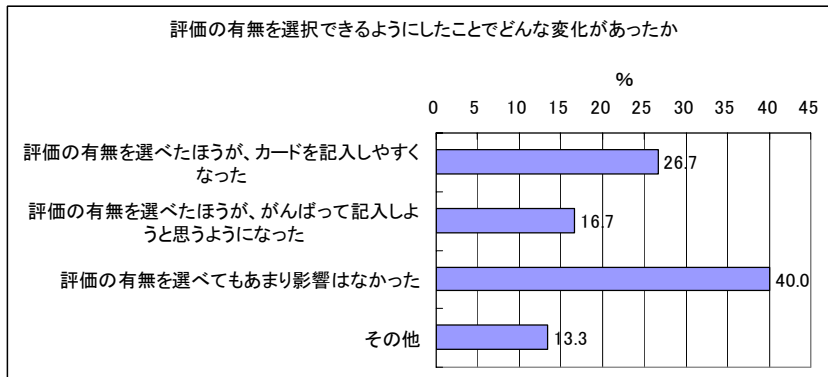


図8 評価の有無を選択できるようにしたことによる変化

(3) カード記入時に他人の意見をどの程度参考にしたか

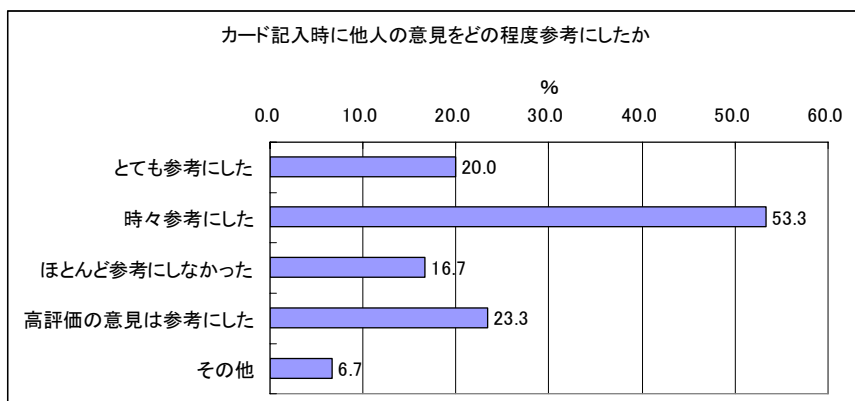


図9 「カード記入時に他人の意見をどの程度参考にしたか」への回答

図9では、カード記入時にどの程度他人の意見を参考にしたかをまとめたものである。この結果をみるとほとんどの生徒が、程度の差こそあれ、他人の意見を参考にしたと回答していることが分かる。コメントカードを使用する最大の目的である、他の人の意見を知り自己の考えを深めるという狙いはアンケート結果からも達成できたと考えられる。

(4) 自由記述（全ての意見）

・時々分からないことや、思ったことを聞ける

のでよかった。

- ・他の人の意見が授業の最初に聞けることは参考になった。
- ・正直面倒だったけれど、コメントカードを書かなくてはならないので、授業を良く聞くようになった。
- ・カードを書くために授業をちゃんと聞くようになった。授業の最初に先生がコメントを読み上げて、質問に答えるのが楽しかった。
- ・授業内容が難しい時は、何を書けばいい分からなかった。

- ・評価に入ると思うと、がんばって書いた。
- ・面倒だったが、授業内容について色々考えるようになった。
- ・あればあったで色々考えるが、時々ない（記入しなくていい）時があると楽だった。
- ・授業を聞かないとコメントカードが書けないので、授業を聞くようになった。
- ・その日の授業のプリントを見てコメントカードを書いていたので、知らないうちに復習になっていたと思う。
- ・友達の考えを実際に見ることができて参考になった。
- ・自分なりの意見を書けた。
- ・他人の意見を見たり、聞いたりすることで自分の視野が広がると思う。評価が選べてもあまり意味がないと思った。
- ・これからもやってほしい。
- ・コメントカードを書くのが面倒なので、なくしてほしい。
- ・他の人の意見が参考になることもあったが、見られたくない時もあった。書くことがない日は面倒だった。
- ・記入が面倒な時もあった。
- ・疑問を書く先生が色々答えてくれるのが良かった。
- ・ちょっとした疑問でも聞くことができていいシステムだと思った。

自由記述の中で特に多かったのが、コメントを書くために授業を聞くようになったという類のものである。当初あまり考えていなかった効果であるが、授業内容の感想を書いたり、質問を考えたりするために、授業を良く聞くという

のは必然的なことでもある。また「他人の意見が参考になった」「質問しやすかった」「質問に答えてもらえて良かった」という意見も多くあった。些細なことでも質問や疑問が書かれていたカードは次の時間に必ず紹介し、私なりの考えや回答を示したり、生徒に更に疑問を投げかけ考えを深めさせるように心がけた。こうした取り組みに生徒も反応してくれたものと考え

Ⅲ 成果と今後の課題

1 成果

今回の取り組みの一番の成果は、コメントカードの使用を続ける毎に、生徒のコメント内容が良いものとなり、評価点が向上したことである。特に第1期と比較し、最も評価点の平均が高かった第3期では、中位層で約25%、下位層においては約40%以上評価点が上昇しており、他人の意見を参考にし、自らの思考力を高めるという点で一定の成果を得ることができた。

また生徒のアンケート結果には、カードを記入することを意識し授業にこれまでより真剣に取り組むようになったという記述が多数見られた。コメントカードの使用の第一目的は生徒の思考力の向上がであったが、授業への取り組み改善という結果からは、知識の定着や理解を深めるという点においても効果的であったと考えられる。

また副次的な成果として、生徒とのコミュニケーションが円滑化したという点が上げられる。カードに書かれたコメントを通して、授業で発言が少なかったり、接点が少なかった生徒の気持ちや考えを知ることができた。その結果、授業時間だけに限らず疑問に答えたり、質問に

対する回答をしたりする機会が増え、生徒とコミュニケーションをとる時間が増加し信頼関係も深めることができた。

2 課題

大きな課題は第4期で評価の高いカードをこれまでのコメントの評価が低い生徒に行き渡るように配布したが、第3期と比較して評価点が頭打ちになったことである。特に下位層の生徒にとって、上位層の生徒の意見を参考にし、自分の意見の考えを深めるという作業は難しいものであったと予想できる。第1期と第3期を比較した際の評価点上昇率は下位層が最も高かったが、第3期から第4期の評価点がほとんど変わらなかったことを考えると、下位層生徒の評価点が第3期まで上昇した要因は、成績を気にしたり、慣れによるものが主だったとも考えられるからである。今後は、ただ前の生徒の書いたコメントを読んで参考にさせるというだけでなく、良いコメントを参考に授業で学んだことについてどんなポイントや観点で考えを深めればよいのか、さまざまな面から教員がアドバイスし、思考を支援する必要があると考えている。